

C-74 衣服設計に関する研究(第1報) - 女子中学生の体型について -
京都女大家政 岡山絹江 山名信子 福井弥生 奥村 董
大志万八栄子 岡田節子

目的: 衣服設計の立場から、女子中学生の成長発育による体型の変化を把握することを目的とした。

方法: 資料は、1975年9月に計測を行なった京都女子中学校生徒13才から15才までの合計300名の計測値である。研究項目は、計測項目69項目のうち衣服寸法に關係の深い20項目である。第1報では、成長による身体各部位の年令的变化について検討を加え、同時に、年令別による体型について考察した。また1966年に計測した資料とも比較し、年次の推移による成長の変化についても検討した。

結果: 1) 13・14才間では、全項目とも増加し成長による身体各部位の変化が認められる。14・15才間では、胸囲・腹囲・腰囲・大腿最大囲・腕付根囲・上腕最大囲・股上前後長・体重については増加の有意差が認められるが、身長・袖丈・背丈・背肩幅・乳頭位胸囲では有意差が認められず成長は緩慢である。

2) 1966年計測の全国資料と比較すると、各年令とも9年後における本資料の方が17の項目も優位であり、年次の推移による成長の変化が認められる。

3) 成人値を100とした百分率による成長曲線について考察すると、身体各部位が成人値に近づく様相は一律でない。比較的早い年令に成長が行われる項目は、身長・足長・背肩幅・背丈・袖丈であり13才で約97%に達する。また比較的遅い年令に成長が行われる項目は、体重・乳頭位胸囲・腰囲・頸付根囲・腕付根囲・大腿最大囲であり、15才で96%以上に達する。股の高さ・胸囲については13才で成人値を凌駕している。